

診療所版J-SIPHE



Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics

診療所版J-SIPHE 「OASCIS」の活用方法

中村記念病院薬剤部
J-SIPHE専門家委員
山田和範

2023年1月23日 東区感染対策研修会

AMR対策アクションプランの数値目標と達成度

指標微生物の薬剤耐性率

	指標	2013年 ¹	2019年 ²	目標値 ³
医療分野	肺炎球菌のペニシリン非感受性率	47.40%	32%	15%以下
	大腸菌のフルオロキノロン耐性率	35.50%	41%	25%以下
	黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率	51.10%	48%	20%以下
	緑膿菌のカルバペネム耐性率	17.10%	16%	10%以下
	大腸菌・肺炎桿菌のカルバペネム耐性率	0.1-0.3%	0.1-0.4%	0.2%以下(同水準)

抗微生物剤の使用量「人口千人あたりの一日抗菌薬使用量(DDDs)」

指標	2013年 ¹	2020年(2013年比) ⁴	目標値 ³
全体	14.91	28.9%減	2/3以下(2013年比)
経口セファロスポリン、フルオロキノロン、マクロライド	それぞれ 3.91, 2.83, 4.83	経口セファロスポリン 42.8%減	半減(2013年比)
		経口フルオロキノロン 41.5%減	
		経口マクロライド 39.5%減	
静注抗菌薬使用量	0.96	2.7%減	20%減(2013年比)

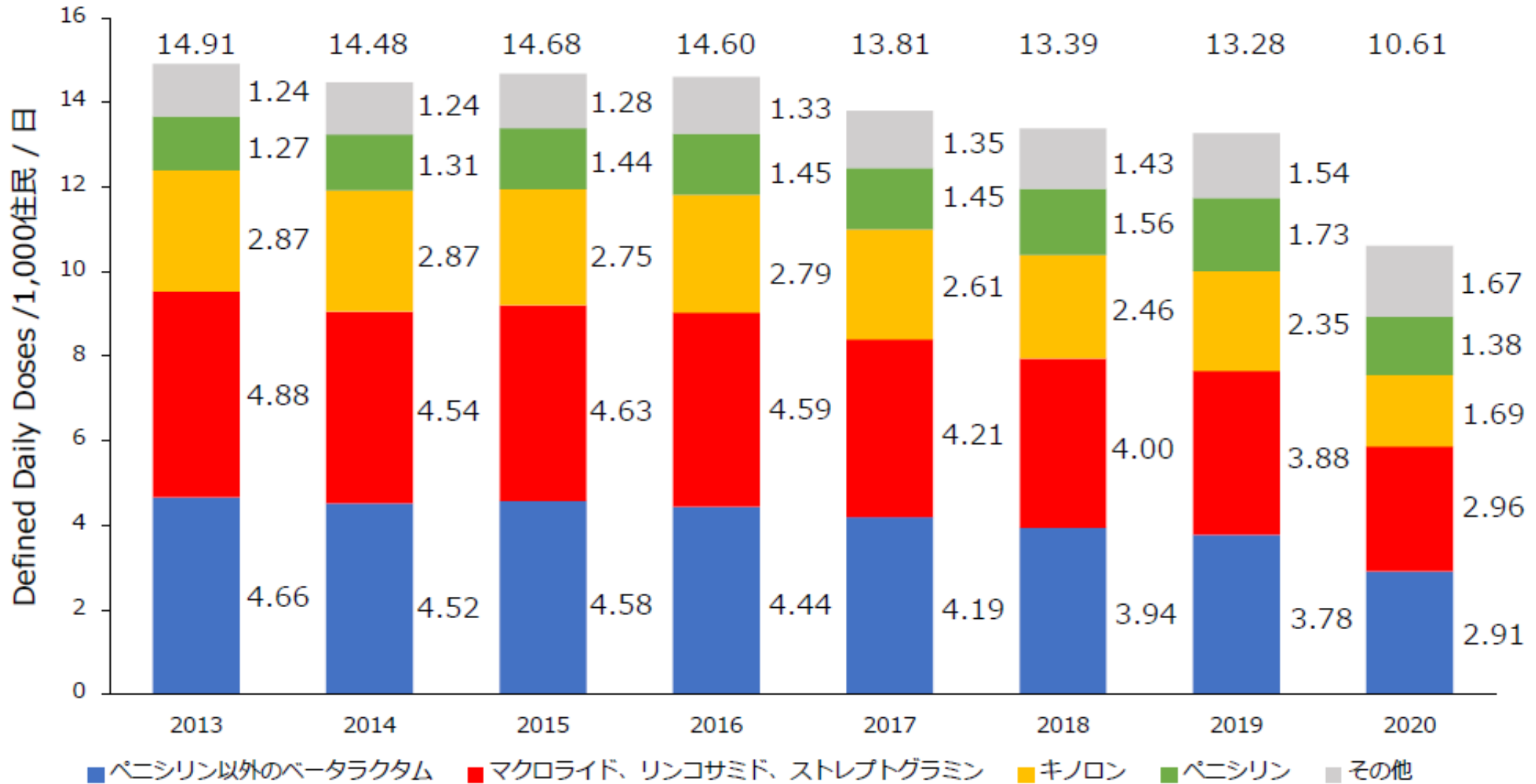
1.薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2020

3.薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン (2016-2020)

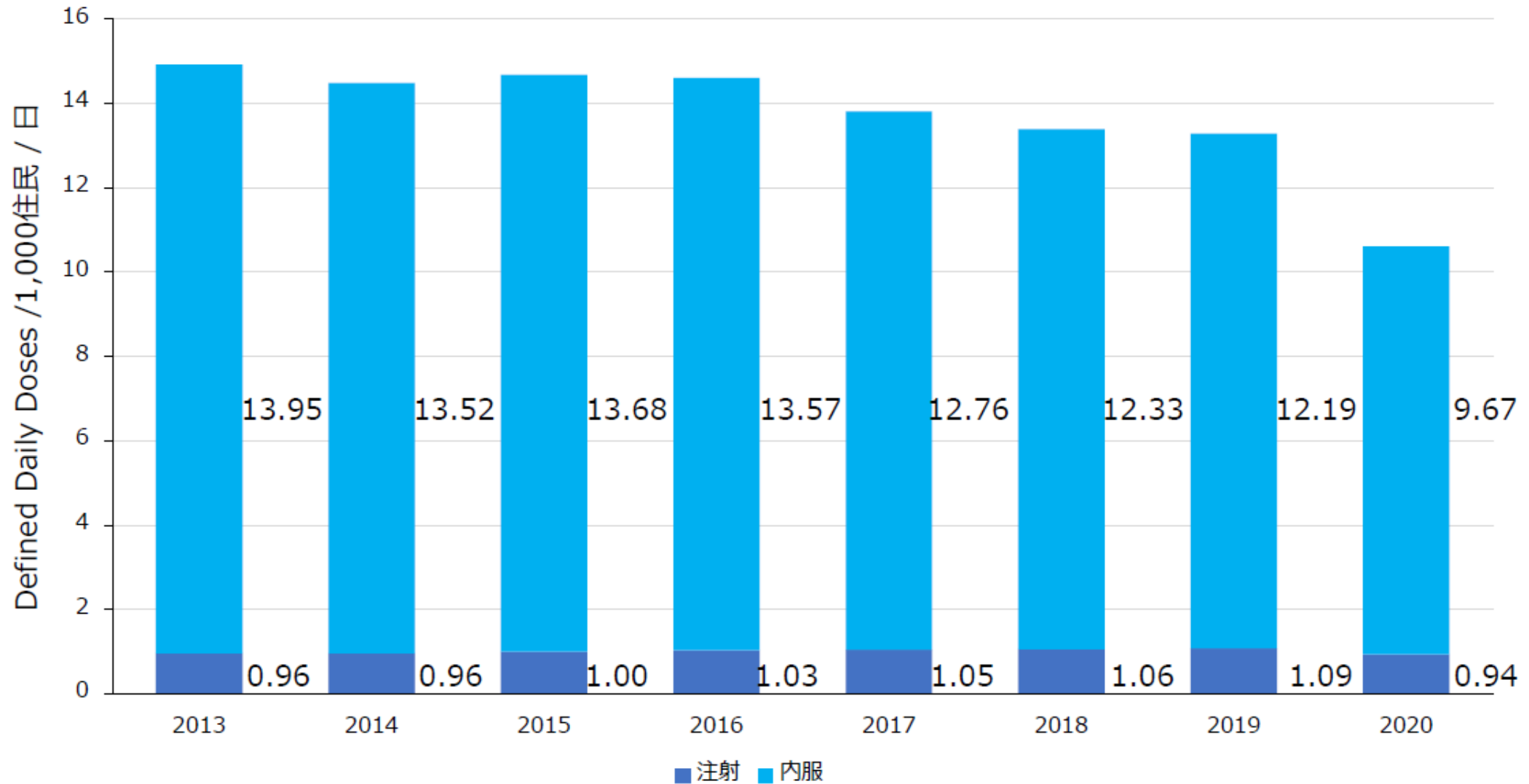
2.JANIS検査部門公開情報 (入院検体)

4.AMR臨床リファレンスセンター全国抗菌薬販売量サーベイランス

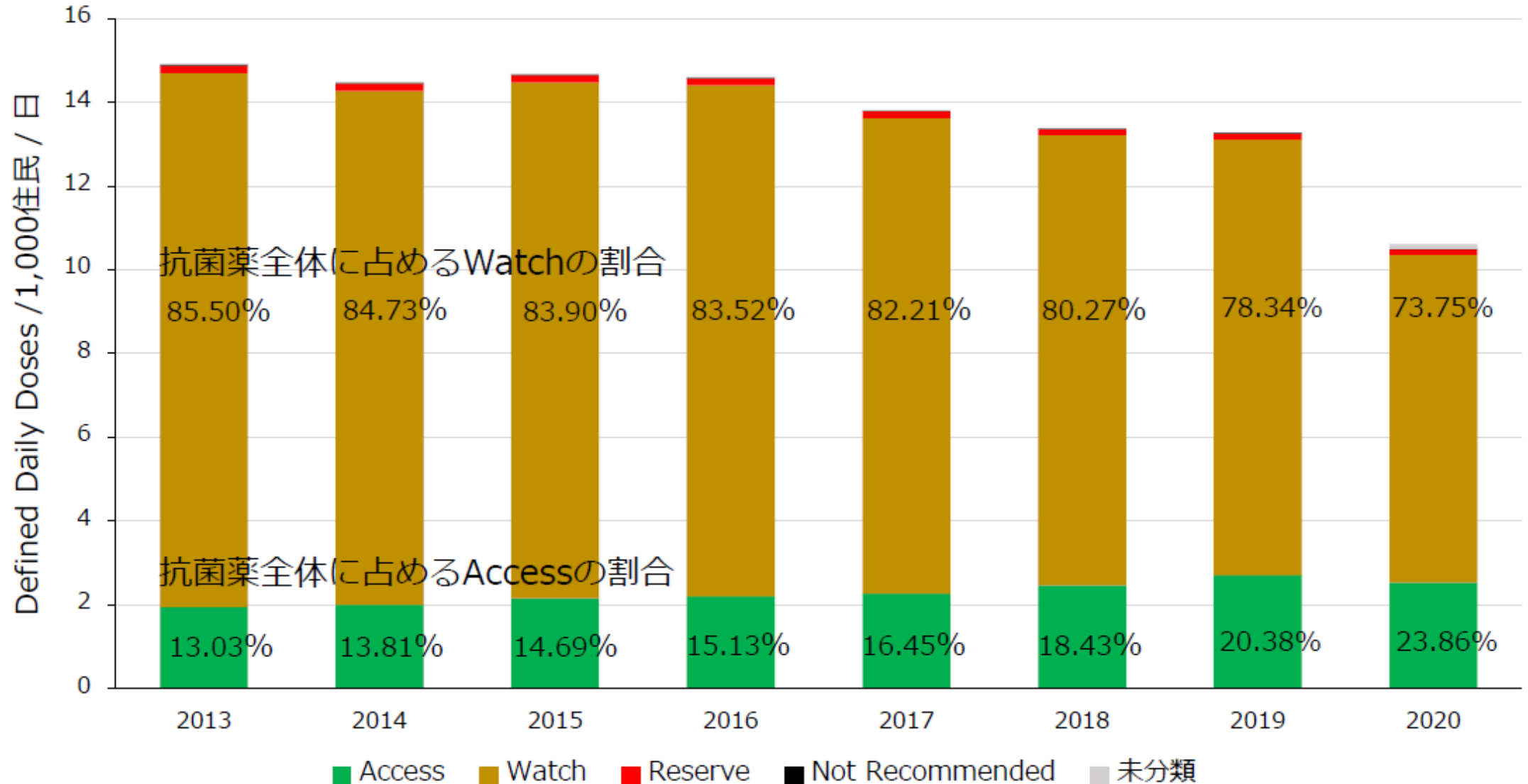
全国抗菌薬販売量推移2013-2020 (抗菌薬種類(ATC3)別に分類)



全国抗菌薬販売量推移2013-2020 (剤型で分類)



全国抗菌薬販売量推移2013-2020 (AWaReで分類)



Access/Watch/Reserveそれぞれに分類される抗菌薬

Access

- ・アモキシシリン
- ・アモキシシリン・クラブラン酸
- ・アンピシリン
- ・ベンザチンベンジルペニシリン
- ・ベンジルペニシリン
- ・セファレキシン
- ・セファゾリン
- ・クロラムフェニコール
- ・クリンダマイシン
- ・ドキシサイクリン
- ・ゲンタマイシン
- ・アミカシン
- ・メトロニダゾール
- ・ニトロフラントイン
- ・フェノキシメチルペニシリン
- ・プロカインベンジルペニシリン
- ・スペクチノマイシン
- ・スルファメトキサゾール・トリメトプリム

Watch

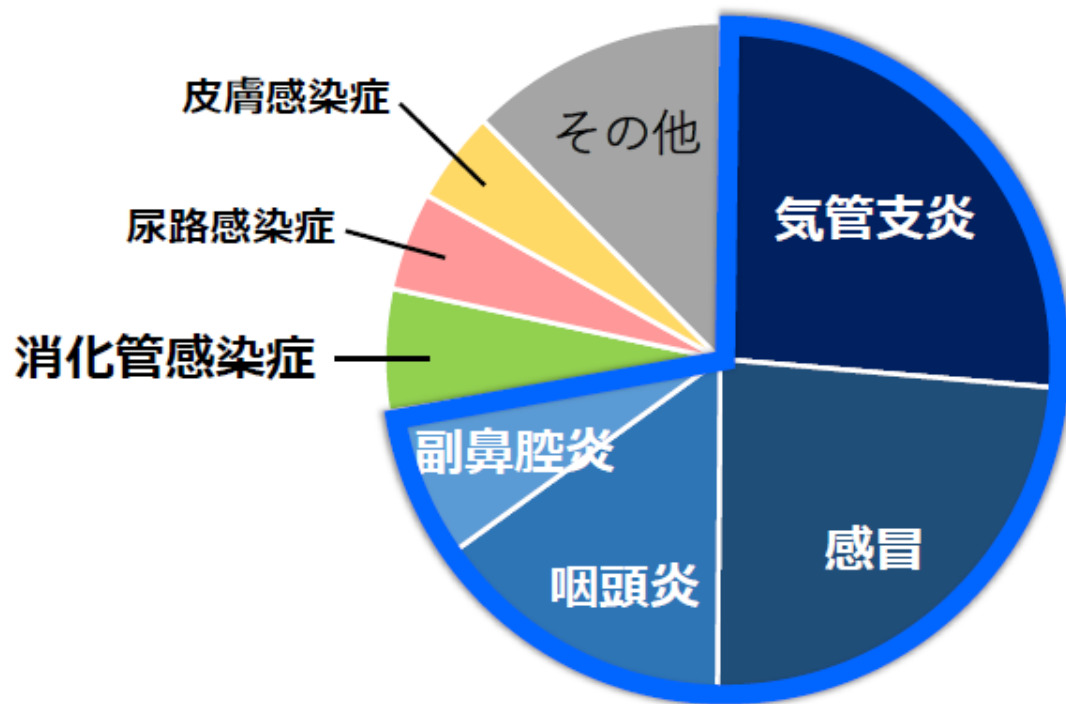
- ・アジスロマイシン
- ・セフィキシム
- ・セフトリアキソン
- ・シプロフロキサシン
- ・クラリスロマイシン
- ・ピペラシリン・タゾバクタム
- ・メロペネム
- ・バンコマイシン

- ・キノロン系
- ・フルオロキノロン系
- ・第3世代セファロスポリン系
- ・マクロライド系
- ・グリコペプチド系
- ・抗緑膿菌薬ペニシリンと
ベータラクタマーゼ阻害薬の合剤
- ・カルバペネム系
- ・ペネム系

Reserve

- ・アズトレオナム
- ・第4世代セファロスポリン系
- ・第5世代セファロスポリン系
- ・ダプトマイシン
- ・静注ホスホマイシン
- ・オキサゾリジノン系
- ・ポリミキシン系
- ・チゲサイクリン

日本で抗菌薬が使用されている疾患 (2012-2015)



70% 気道感染症
10% 下痢症

Hashimoto H, et al. *Int J Infect Dis.*
2020;91:1-8.



ターゲットは
外来診療&経口抗菌薬

目的：診療所における抗菌薬処方や傷病名の情報の継続的な可視化により常に現状を把握し、持続的に対策を立てる振り返りの機会を設け、抗菌薬適正使用を推進する

診療所版J-SIPHE 「OASCIS」 のリリース

AMR臨床リファレンスセンター

文字サイズ 標準 拡大1 拡大2



ログイン



OASCIS とは

使い方

お問い合わせ

リンク集

参加登録申請



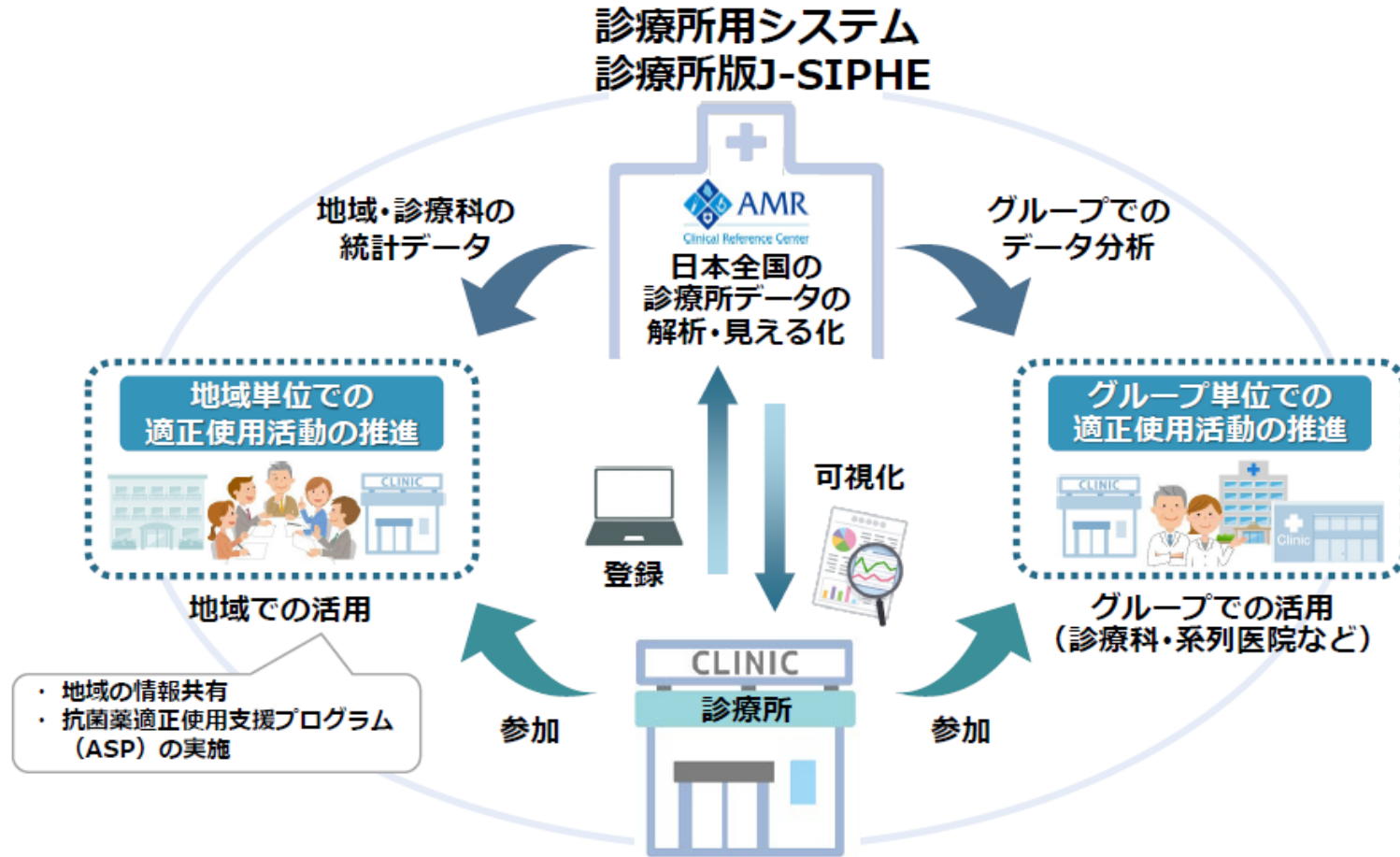
Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics

AMR臨床リファレンスセンターが主体となり、診療所のAMR対策に活用できるシステムとして、「OASCIS（オアシス）」が開発されました。

抗菌薬の使用状況をはじめとした様々なデータを受け取ることができます。

<https://oascis.ncgm.go.jp/manual/how-to-use>

診療所版J-SIPHE「OASCIS」について



感染対策向上加算1算定施設も参加し
任意でグループを作成することが可能

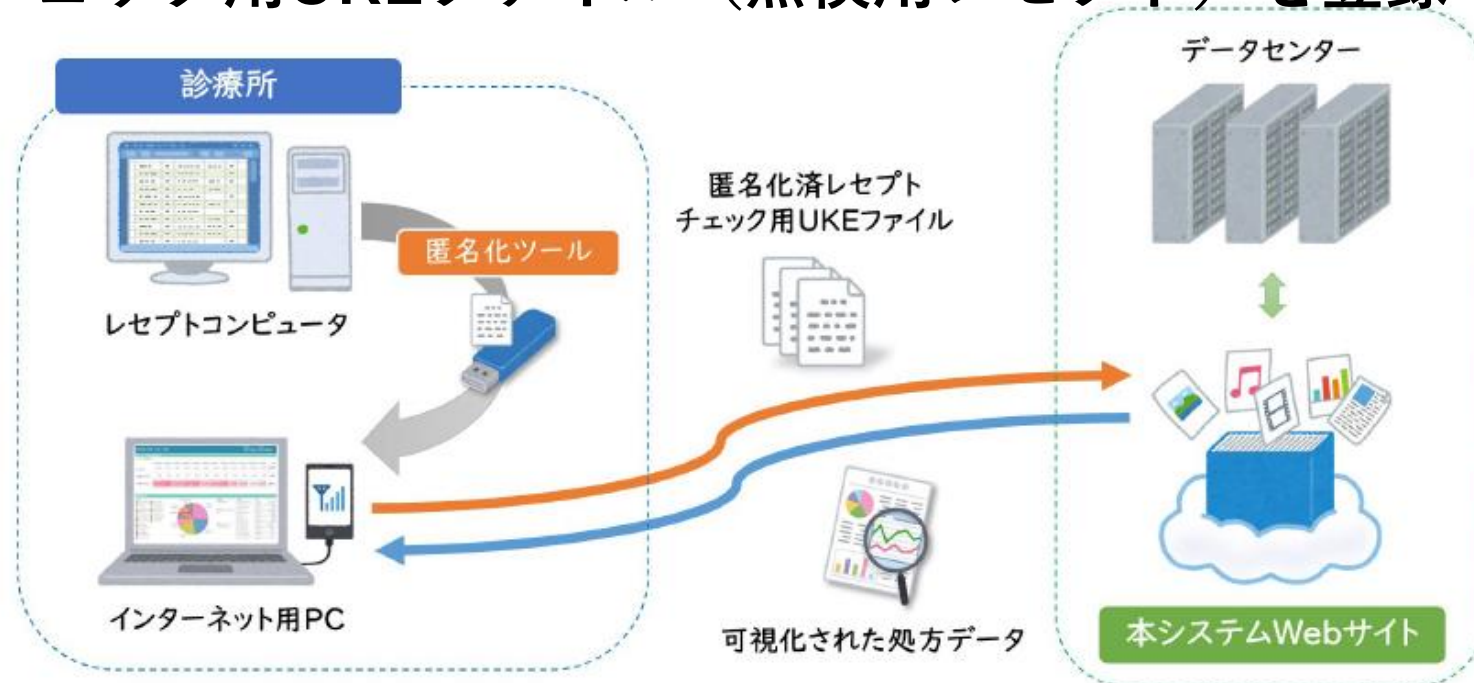
システムについて

< 疾病名に対する処方内容の取得 >

既存のデータを活用

レセプトコンピュータの請求情報、レセプトファイルの出力機能を利用

レセプトチェック用UKEファイル（点検用レセプト）を登録



データ抽出、提出は誰が行ってもO.K.です！



医師



薬剤師

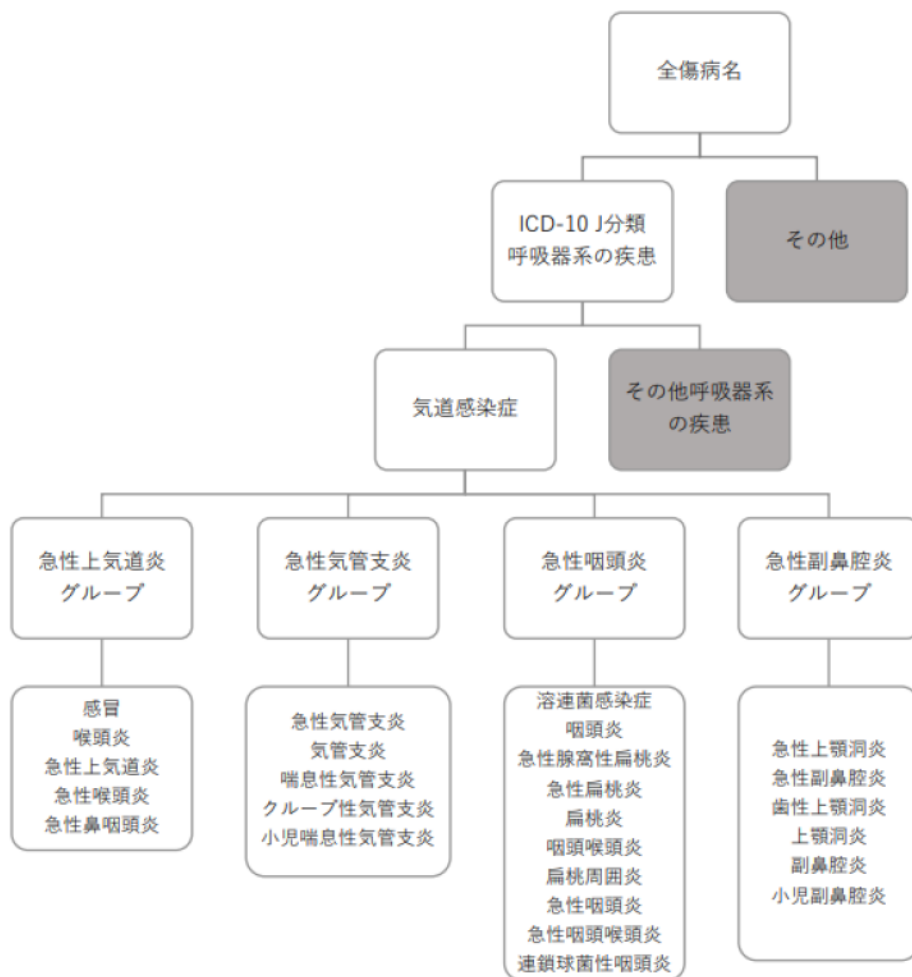


医療事務

定義

【現在対象の傷病名、グループ】

☆ 分類グループの階層図



【集計対象の抗菌薬】

WHO ATC分類「J01」を抗菌薬として集計

【傷病名の分類】

WHO ICD-10（2013年版）に準拠

【受診患者数】

診療月内での受診（複数回受診は1人として集計）

【初診件数】

新たな傷病名が付与された受診（初診）の件数

【処方件数】

初診かつ処方のある受診の件数

【抗菌薬処方率】

処方件数のうち対象の抗菌薬を含む割合
(抗菌薬処方件数/処方件数)

【今後の定義づけ・集計を予定している対象傷病】

耳鼻咽喉科感染症疾患（急性中耳炎）

皮膚科感染症疾患、尿路感染症、膀胱炎、急性下痢症

できること

< 初診での処方薬を可視化 >

- 初診（疾病名を付けた受診）に対する抗菌薬処方
 - ✓ どのくらい抗菌薬を処方しているか・・・抗菌薬処方率
 - ✓ どのような抗菌薬を処方しているか・・・抗菌薬種別使用割合
- ICD-10気道感染症の疾病名や、より詳細な疾病名グループ別の分析ができる
 - 急性上気道炎、急性気管支炎、急性咽頭炎、急性副鼻腔炎の4グループ
- 分析結果を地域や診療科別の統計データと比較できる

< 継続的な分析 >

- 月毎のデータ登録が可能でモニタリングできる
- 時系列的な比較ができる

利用用途

<データの活用>

- 自施設・グループの現状把握
 - 全体データ : 都道府県別の抗菌薬処方率（ヒートマップ）
抗菌薬処方率の月次推移
 - 自施設データ : 年齢別の受診件数、傷病名グループ別の抗菌薬処方率・
内訳などの詳細な分析結果
 - 統計データ比較 : 地域や診療科別の統計データと自施設データの比較、
グループ間比較
- 院内カンファランス、研究、学会発表等での使用
- 感染対策向上加算 1 算定施設との地域連携カンファランスでの使用
- JANISとの連携（診療所における薬剤耐性菌の検出、アンチバイオグラム）

外来感染対策向上加算の新設及び感染防止対策加算の見直し

- 診療所について、平時からの感染防止対策の実施や、地域の医療機関等が連携して実施する感染症対策への参画を更に推進する観点から、外来診療時の感染防止対策に係る評価を新設する。

(新) 外来感染対策向上加算 6点 (患者1人につき月1回)

[算定要件]

組織的な感染防止対策につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関(診療所に限る。)において診療を行った場合は、外来感染対策向上加算として、患者1人につき月1回に限り所定点数に加算する。

[主な施設基準]

- (1) 専任の**院内感染管理者**が配置されていること。
- (2) **少なくとも年2回程度**、感染対策向上加算1に係る届出を行った医療機関又は地域の医師会が定期的に主催する**院内感染対策に関するカンファレンスに参加していること**。また、感染対策向上加算1に係る届出を行った医療機関又は地域の医師会が主催する**新興感染症の発生等を想定した訓練について、少なくとも年1回参加していること**。
- (3) 新興感染症の発生時等に、**都道府県等の要請を受けて発熱患者の外来診療等を実施する体制を有し**、そのことについて自治体のホームページにより公開していること。

- 外来感染対策向上加算に係る届出を行っている保険医療機関が、感染対策向上加算1に係る届出を行っている他の保険医療機関に対し、定期的に院内の感染症発生状況等について報告を行っている場合及び地域のサーベイランスに参加している場合の評価をそれぞれ新設する。

(新) 連携強化加算 3点 (患者1人につき月1回)

[施設基準]

- (1) 感染対策向上加算1に係る届出を行った医療機関に対し、**過去1年間に4回以上**、感染症の発生状況、抗菌薬の使用状況等について**報告を行っていること**。

(新) サーベイランス強化加算 1点 (患者1人につき月1回)

[施設基準]

- (1) 院内感染対策サーベイランス(JANIS)、感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE)等、**地域や全国のサーベイランスに参加していること**。

システムについて

Webサイトのダッシュボード例



各施設のダッシュボード（全傷病名）

基本情報												
	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
初診件数	4,094	1,560	4,918	2,544	4,070	1,315	5,304	5,764	2,952	5,145	2,538	4,575
受診患者数	5,896	2,213	6,776	3,551	5,536	1,840	7,246	7,992	4,049	7,162	3,535	6,320
総受診件数	3,220	1,504	3,615	2,041	3,311	925	4,258	4,689	2,315	4,113	1,819	3,740

最新表示月
2020年12月

受診件数（月推移）
初診件数
抗菌薬処方率

処方データ												
	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
処方件数	1,527	794	1,824	1,361	1,916	615	2,376	2,566	1,295	2,194	1,143	2,155
抗菌薬処方件数	288	190	371	261	363	104	444	450	257	350	178	395
抗菌薬処方率	18.9%	23.9%	20.3%	19.2%	18.9%	16.9%	18.7%	17.5%	19.8%	16.0%	15.6%	18.3%

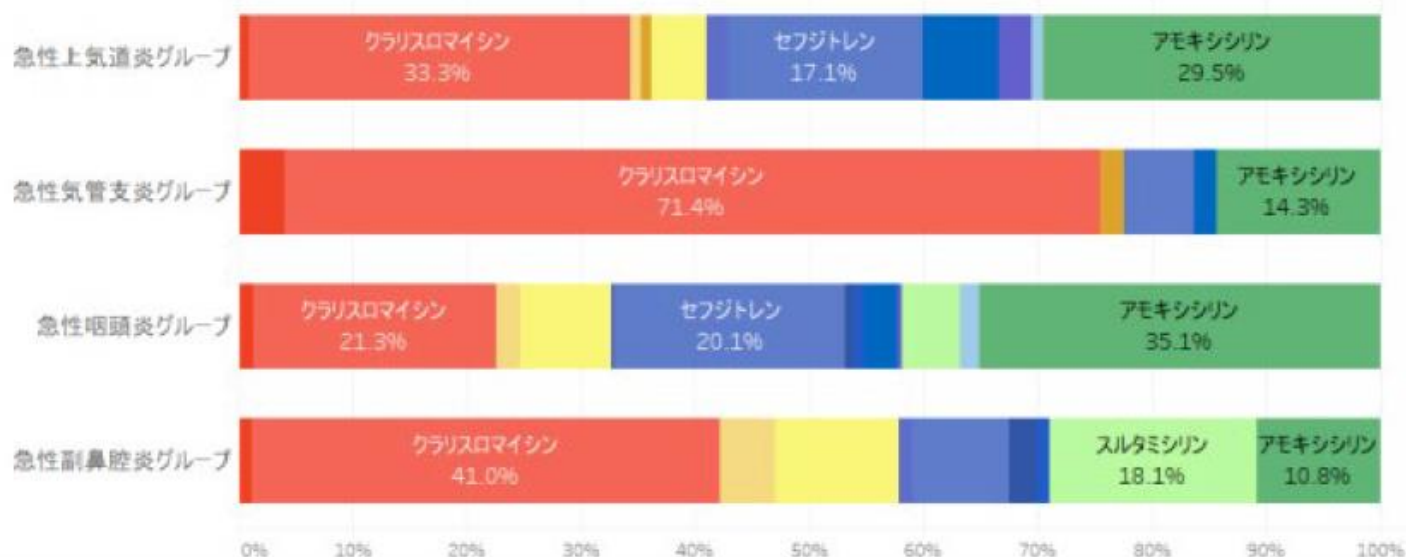
傷病名グループ
全傷病名



各施設のダッシュボード（全傷病名）

傷病名グループ別抗菌薬処方内訳

剤形の絞り込みなどにより該当データが存在しない場合、項目が表示されません。



表示期間

表示開始年月

2020年1月

表示終了年月

2020年12月

剤形

(すべて)

傷病グループ内訳

急性上気道炎グループ

感冒 急性喉頭炎
急性上気道炎 急性鼻咽頭炎
喉頭炎

急性気管支炎グループ

グループ性気管支炎 気管支炎
急性気管支炎
小児喘息性気管支炎
喘息性気管支炎

急性咽頭炎グループ

咽頭炎 咽頭喉頭炎
急性咽頭炎 急性咽頭喉頭炎
急性細菌性扁桃炎
急性扁桃炎 溶連菌感染症
連鎖球菌性咽頭炎 扁桃炎
扁桃周囲炎

急性副鼻腔炎グループ

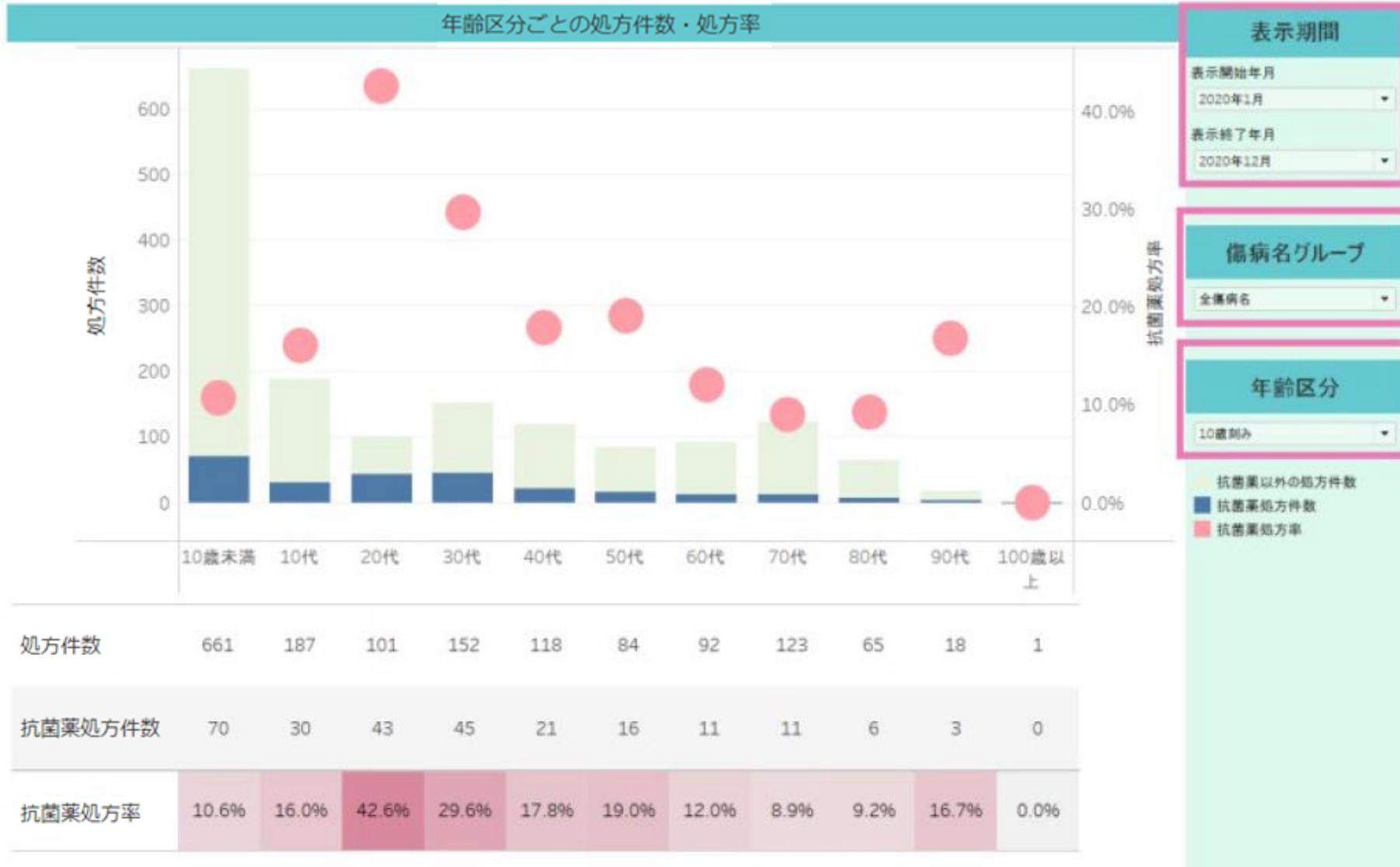
急性上顎洞炎 急性副鼻腔炎
慢性上顎洞炎 小児副鼻腔炎
上顎洞炎 副鼻腔炎

抗菌薬の処方件数・内訳

分類名	処方件数	処方内訳	一般名	処方件数	処方内訳
βラクタマーゼ阻害剤を含むペニシリン系配合剤	64	6.7%	アモキシシリン/βラクタマーゼ配合剤	10	1.1%
			スルタミシリン	54	5.7%
フルオロキノロン系	90	9.5%	レボフロキサシン	66	6.9%
			トスフロキサシン	4	0.4%
			ラスクフロキサシン	20	2.1%
マクロライド系	324	34.0%	クラリスロマイシン	310	32.6%
			アジスロマイシン	14	1.5%
広域ペニシリン系	262	27.5%	アモキシシリン	262	27.5%
			セファレキシ	8	0.8%
第一世代セファロスポリン系	8	0.8%	セフトリアキソン	6	0.6%
			セフトロキシム	8	0.8%
第三世代セファロスポリン系	174	18.3%	セフトレ	152	16.0%
			セフカペン	8	0.8%
第二世代セファロスポリン系	30	3.2%	セファクロ	30	3.2%

各施設のダッシュボード（全傷病名）

抗菌薬処方内訳
（年齢区分別）



自施設と全施設全体との比較

抗菌薬処方率(統計データとの比較)

	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
他施設の抗菌薬処方率(中央値)	16.5%	15.6%	17.2%	17.7%	16.7%	14.4%	16.1%	16.1%	16.0%	14.1%	12.6%	16.4%
自施設の抗菌薬処方率	4.6%	4.6%	4.6%	7.0%	5.4%	4.5%	4.6%	4.5%	5.1%	4.9%	4.4%	3.6%
割合差	-11.9%	-11.0%	-12.5%	-10.6%	-11.3%	-10.0%	-11.5%	-11.6%	-10.9%	-9.3%	-8.3%	-12.8%

表示期間

表示開始年月 2020年1月

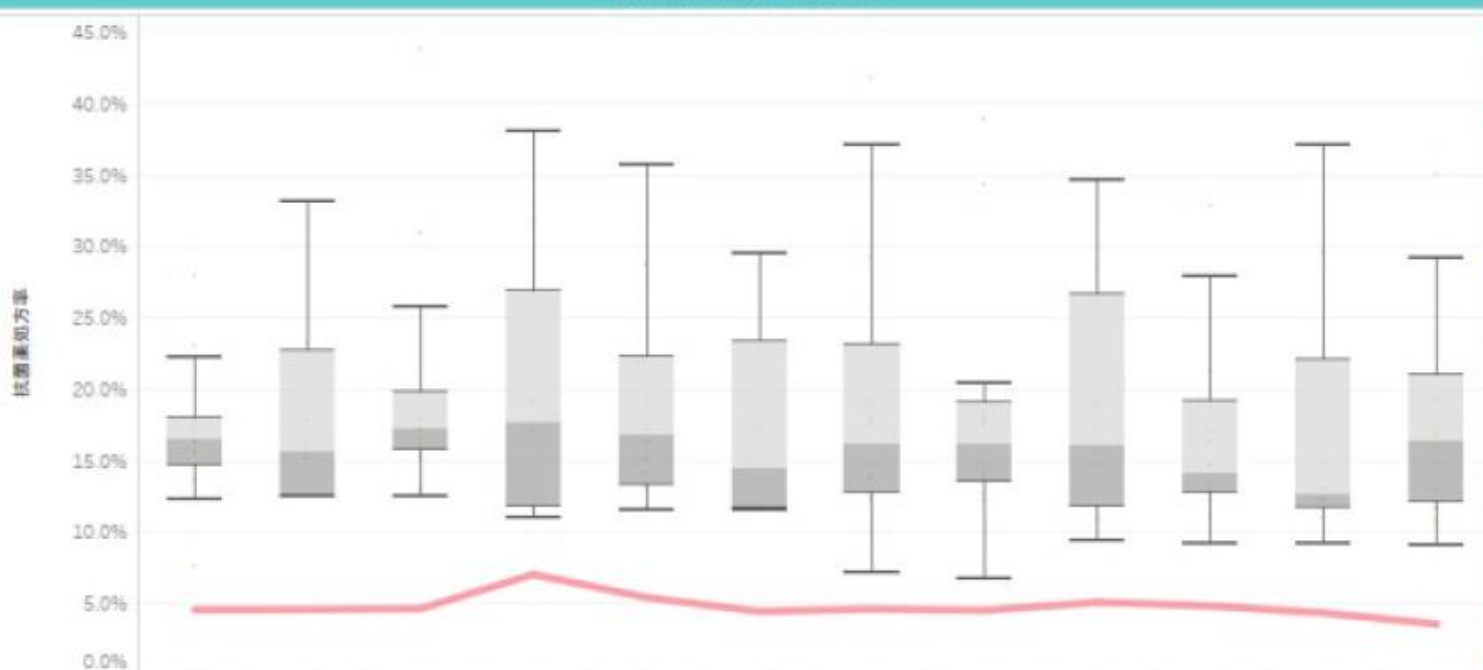
表示終了年月 2020年12月

抗菌薬処方率
抗菌薬種類の内訳など

傷病名グループ

全傷病名

抗菌薬処方率(分布)

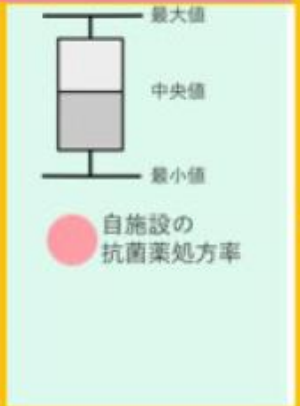


診療科グループ

(すべて)

地域

(すべて)

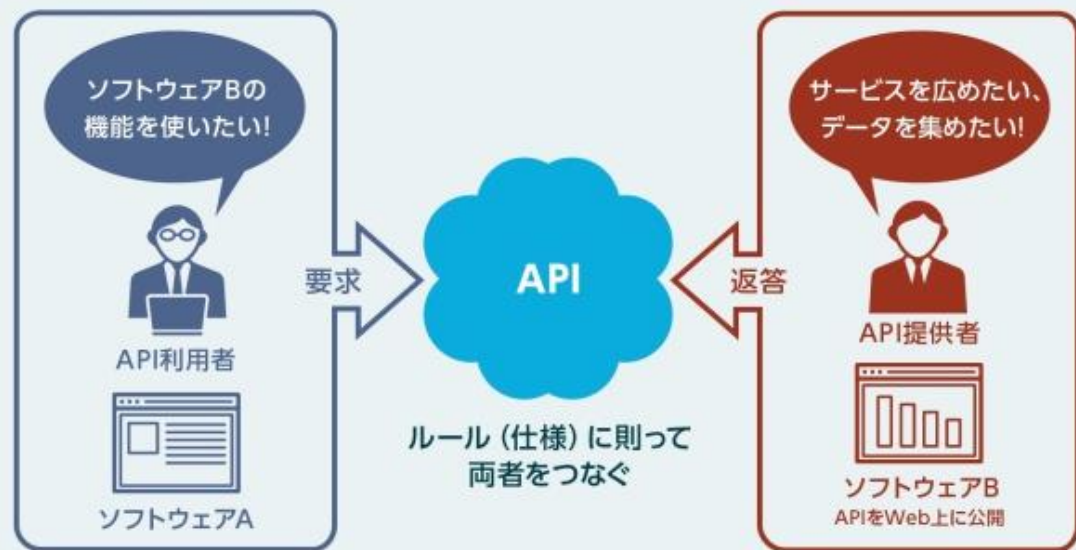


OASCISで利用可能なデータ（限界）

- 抗菌薬の使用量の評価は診療所、クリニックでは難しい！
ex) 病院ではAUDやDOTをもとに1000patients・daysをもとに数字を同じ土俵に乗せて比較できる
(代替指標1000住民・days)
- 診療所・クリニックではAUD、DOTで単純に評価できない
& 標榜している診療科で抗菌薬の使用量が違う
ex) 循環器科、内科、耳鼻咽喉科、整形外科、小児科、.etc

API連携によるアンチバイオグラムの作成

(2023年1月現在は未実装)



OASCIS

JANIS



- 現在は未実装ですが近日中の公開を目標に設計
- ただし、JANIS還元情報を用いるため、JANISにも参加している施設のみがご利用できる機能となります
- クリニック側からすると、JANISに参加し、検査会社などから提供されたJANIS提出ファイルをJANISに提出する作業も発生します
- JANISにデータを置いておきさえすれば、API連携（オアシスとJANISサーバの連携）にて自動的な菌の数の集計や感受性の割合の計算ができる便利な機能です
- クリニック単体ですと、培養検査件数が少ないため、アンチバイオグラムの評価が難しいですが、地域など複数のクリニックが集まることで地域の外来クリニックの集団のアンチバイオグラムは作成可能となります

微生物・耐性菌関連情報 / アンチバイオグラム

自施設

地域・診療科

グループ

すべて

すべて

アンチバイオグラム (2022年1月~2022年10月)

表示期間

2022年1月 2022年10月

適用

抗菌薬系統

(すべて)

菌グループ

(すべて)

※JANISに加入が必要

- 感受性率80%未満
- 感受性率80~89%
- 感受性率90%以上
- - : 対象菌株数10未満
- NA : 感受性結果の表示対象外
- R : 自然耐性

菌グループ	菌名	解析株数	ペニシリン								
			PCG	ABPC	SBT/ABPC	CVA/AMPC	PIPC	TAZ/PIPC	CEZ	CEZ※1	
Staphylococcus	Staphylococcus aureus	89	NA	-	-	NA	-	-	52	-	
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (M.)	48	NA	-	-	NA	-	-	100	-	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (M.)	44	R	R	R	R	R	R	R	-	
	コアグラージェ陰性ブドウ球菌 (CNS)	39	50	-	-	-	-	-	-	-	
Streptococcus	Streptococcus pneumoniae [..]	0	NA	-	-	-	-	-	-	-	
	Streptococcus pneumoniae [..]	5	NA	-	-	-	-	-	-	-	
	Streptococcus pyogenes	0	NA	NA	-	-	-	-	-	-	
	Streptococcus agalactiae	0	NA	NA	-	-	-	-	-	-	
Enterococcus	Enterococcus faecalis	28	NA	100	-	-	-	-	R	R	
	Enterococcus faecium	6	NA	NA	-	-	-	-	R	R	
腸内細菌科細菌	Escherichia coli	87	-	52	63	NA	56	100	65	65	
	Escherichia coli [CTX or CTRX..]	21	-	-	33	NA	0	100	-	-	
	Klebsiella pneumoniae	52	-	R	84	NA	0	92	86	86	
	Klebsiella pneumoniae [CTX ..]	7	-	R	-	-	NA	NA	-	-	
	Klebsiella oxytoca	7	-	-	-	-	-	NA	NA	NA	
	Enterobacter cloacae	22	-	R	R	R	81	95	R	R	
	Klebsiella aerogenes	6	-	NA	-	NA	NA	NA	NA	NA	
	Proteus mirabilis	10	-	80	90	NA	90	100	90	90	
	Proteus vulgaris	0	-	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
	Citrobacter freundii	3	-	R	R	R	NA	NA	R	R	
	Citrobacter koseri	2	-	R	R	R	NA	NA	R	R	
	Serratia marcescens	8	-	R	R	R	NA	NA	R	R	
	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌	Pseudomonas aeruginosa	35	-	R	R	R	97	97	R	R
		Acinetobacter baumannii	3	-	R	NA	R	NA	NA	R	R
Acinetobacter spp.		6	-	R	R	R	R	R	R	R	
Stenotrophomonas maltophilia		0	-	R	NA	R	NA	NA	R	R	
その他グラム陰性桿菌	Haemophilus influenzae	7	NA	NA	NA	NA	-	-	NA	-	

薬剤耐性 (AMR) ワンヘルスプラットフォーム

薬剤耐性 (AMR) ワンヘルスプラットフォーム

日本語 English

ホーム ヒト 動物 環境 項目比較 お気に入り 0 サイトについて

新着情報

- 2022年08月03日 データを更新しました。(PDF: 414KB)
- 2022年07月28日 システムメンテナンスのため8月3日9時から10時まで停止します
- 2021年11月30日 データを更新しました。(PDF: 451KB)
- 2021年11月29日 システムメンテナンスのため11月30日9時から10時まで停止します

都道府県データはこちら

都道府県AMR情報

関連情報



AMRワンヘルスプラットフォームでできること

1

全国から都道府県別のデータまで 日本のAMR情報を網羅

各種データの切り替えやエリア比較も簡単に行うことができ、複数の都道府県の比較や経年的な比較まで対応しています。



2

ヒト・動物・環境まで 幅広い分野のデータを網羅

ヒト医療の分野のみならず獣医療、畜水産、農業、食品衛生、環境などの分野まで網羅しています。



既存のアンチバイオグラムの利用

自治体向けリンク集

基本情報

- [年齢別人口分布・施設情報など](#)

薬剤耐性菌関連情報

- [病院向け：アンチバイオグラム \(JANIS\)](#)
- [診療所向け：アンチバイオグラム \(BML\)](#)
- [病院向け：Streptococcus pneumoniae の耐性率 \(PCG\)](#)
- [病院向け：Staphylococcus aureus\(All\)の耐性率 \(MPIPC\)](#)
- [病院向け：Staphylococcus aureus\(All\)の耐性率 \(CEZ\)](#)
- [病院向け：Staphylococcus aureus\(All\)の耐性率 \(VCM\)](#)
- [病院向け：Escherichia coli の耐性率 \(CTX\)](#)
- [病院向け：Escherichia coli の耐性率 \(CTRX\)](#)
- [病院向け：Escherichia coli の耐性率 \(LVFX\)](#)
- [病院向け：Escherichia coli の耐性率 \(MEPM\)](#)
- [病院向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(CTX\)](#)
- [病院向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(CTRX\)](#)
- [病院向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(MEPM\)](#)
- [病院向け：Pseudomonas aeruginosa の耐性率 \(LVFX\)](#)
- [病院向け：Pseudomonas aeruginosa の耐性率 \(MEPM\)](#)
- [病院向け：Pseudomonas aeruginosa の耐性率 \(GM\)](#)
- [診療所向け：Streptococcus pneumoniae \(髄液検体以外\)の耐性率 \(PCG\)](#)
- [診療所向け：Staphylococcus aureusの耐性率 \(MPIPC\)](#)
- [診療所向け：Staphylococcus aureusの耐性率 \(CEZ\)](#)
- [診療所向け：Staphylococcus aureusの耐性率 \(VCM\)](#)
- [診療所向け：Escherichia coli の耐性率 \(CTX\)](#)
- [診療所向け：Escherichia coli の耐性率 \(CTRX\)](#)
- [診療所向け：Escherichia coli の耐性率 \(LVFX\)](#)
- [診療所向け：Escherichia coli の耐性率 \(MEPM\)](#)
- [診療所向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(CTX\)](#)
- [診療所向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(CTRX\)](#)
- [診療所向け：Klebsiella pneumoniae の耐性率 \(MEPM\)](#)
- [Mycobacterium tuberculosis の耐性率](#)

薬剤耐性 (AMR) ワンヘルスプラットフォーム

日本語 English

ヒト 動物 環境 項目比較 お気に入り サイトについて

新着情報

- 2022年08月03日 データを更新し
- 2022年07月28日 システムメンテ
- 2021年11月30日 データを更新し
- 2021年11月29日 システムメンテ

表示したい都道府県を選択してください。

中国・四国

- 島根 鳥取
- 広島 岡山

九州

- 佐賀 福岡 山口 香川
- 長崎 大分 愛媛 徳島
- 熊本 宮崎 高知
- 沖縄 鹿児島

北海道・東北

- 北海道
- 青森 岩手
- 秋田 宮城
- 山形 福島

関東・信越

- 群馬 栃木
- 茨城 埼玉
- 東京 千葉

近畿

- 京都 滋賀 福井 岐阜 神奈川 新潟
- 兵庫 大阪 三重 愛知 長野 山梨
- 和歌山 奈良 静岡

東海・北陸

- 石川 富山

都道府県データはこちら

都道府県AMR情報

関連情報

One Health

環境までデータを網羅

く産、農業、食品衛生、環境など

全国から都道府県 日本のAMR

各種データの切り替えやエリア別都道府県の比較や経年的な比較まで

全国 関東

都道府県データ

2018年 ▾

🔍 条件を絞り込む

?

↓

🏠 全国データへ

Staphylococcus グループの感受性率

菌名	対象件数	PCG	CVA/ AMP C	MPIP C	CEZ	IPM/ CS	EM	CLD M	LVFX	VCM	TEIC	LZD	ST	MINO
Staphylococcus aureus	13569	41.5	-	73.8	89.3	-	59.8	92.3	-	100	100	100	100	95.5

Streptococcus グループの感受性率

菌名	対象件数	ABPC	PCG	CTX	CTRX	MEP M	EM	CLD M	LVFX	VCM
Streptococcus pneumoniae (髄液検体以外)	3541	-	100	100	-	90.7	27.1	53.6	99.8	100

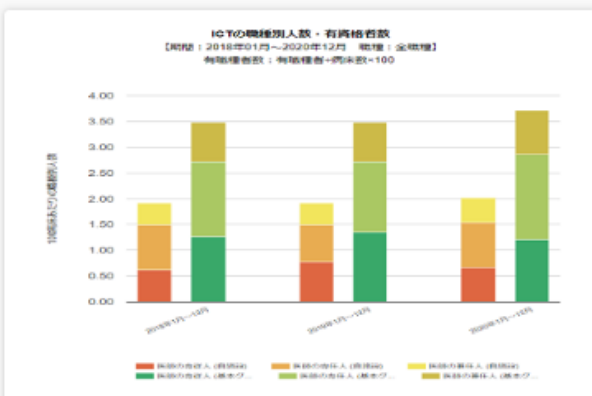
腸内細菌科細菌 グループの感受性率

菌名	対象件数	ABPC	PIPC	SBT/ ABPC	TAZ/ PIPC	CVA/ AMP C	CEZ ※	CMZ	CTX	CTRX	CAZ	CFPM	AZT	MEP M	IPM/ CS	GM	AMK	LVFX	ST
Escherichia coli	32414	62.5	68.5	70.3	99.3	71.2	0.0	99.3	85.9	84.9	94.3	91.1	89.2	100	100	-	99.8	73.2	88.8
Klebsiella pneumoniae	4547	6.8	71.8	78.3	96.1	88.3	-	99.6	95.2	93.4	99.2	96.1	96.5	100	100	-	100	97.8	94.9
Salmonella spp.	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※分母分子の両方から、S (感性) とI (中間) の区別ができないSI判定および判定不能の数を除外しました。

「J-SIPHE」で利用可能なデータ（一部）

ICT関連情報



ICTの職種別人数・有資格者数

No. 3-01
(説明)

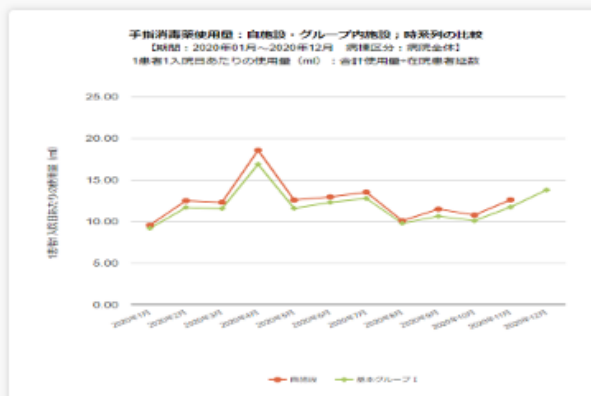
100床あたりのICTの職種別人数や有資格者の割合を示すグラフです。全施設や加算区分別と自施設の状況と比較する…



ICTによる耐性菌監視体制

No. 3-02
(説明)

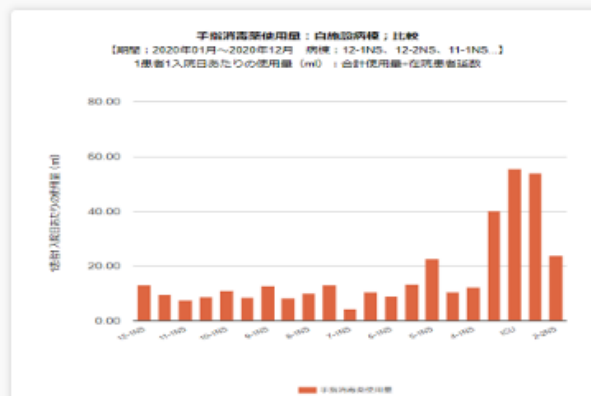
ICTによる監視体制の有り無しの割合を示すグラフです。全施設や加算区分別の状況を確認することができます。



手指消毒剤使用量の推移

No. 3-03
(説明)

1患者日あたりの手指消毒剤使用量の推移を示すグラフです。病棟区分別で表示できます。



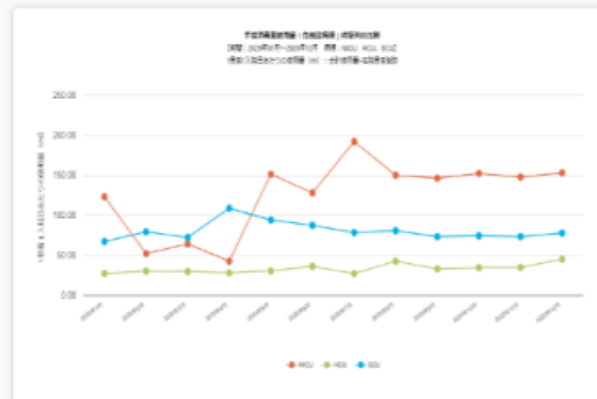
手指消毒剤使用量の病棟別比較

No. 3-04
(説明)

1患者日あたりの手指消毒剤使用量の病棟別比較を示すグラフです。表示対象は「自施設」のみです。

※現状OASCISでは手指消毒薬の使用状況を登録する項目はない

「J-SIPHE」で利用可能なデータ（一部）

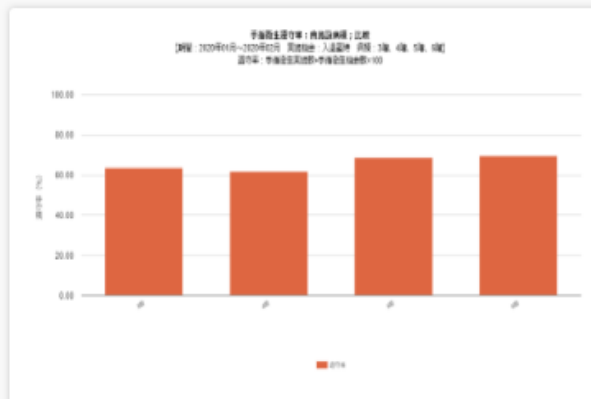


手指消毒剤使用量の病棟別推移

No. 3-05

(説明)

1患者日あたりの手指消毒剤使用量の病棟別推移を示すグラフです。表示対象は「自施設」のみです。

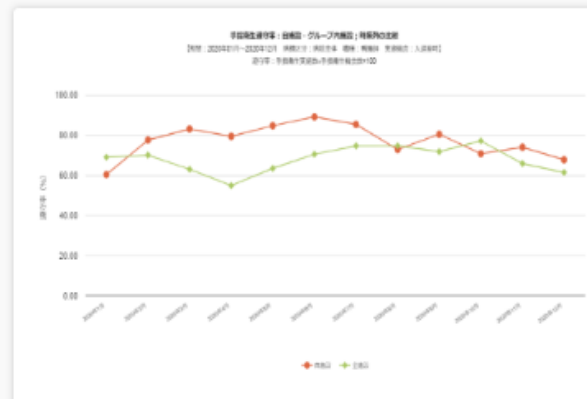


手指衛生遵守率の病棟別比較

No. 3-06

(説明)

手指衛生の機会数の内、実施数の割合を病棟別比較で示すグラフです。表示対象は「自施設」のみです。



手指衛生遵守率の推移

No. 3-07

手指衛生の機会数の内、実施数の割合を推移で示すグラフです。病棟区分別で表示できます。



手指衛生自己評価フレームワーク

No. 3-08

(説明)

WHO手指衛生自己評価フレームワークのスコアを比較できるグラフです。

※現状OASCISでは手指消毒薬の使用状況を登録する項目はない

まとめ



- ➡ OASCISは、連携強化加算、サーベイランス加算算定のサポートアプリであり、リリースされたこの機会に参加をご検討ください（データ収集と整理の省力化）
- ➡ 現時点での活用方法には限界があり、どのように活用していきたいかユーザーの希望で今後のシステム改修の方針が変わってくる可能性があります
- ➡ アンチバイオグラムは、現行の検査センターのシステムか、ワンヘルスアプローチの情報を活用(将来的にはOASCISからも)
- ➡ 抗菌薬が適切に選択された結果として、抗菌薬使用量が減少することを目指していただければ幸いです

ご清聴ありがとうございました